

# ふるさと探訪

[35]

高津町の

農業、塩見

弘之さん

## 「高津の水車」

塩見弘之さん宅から  
見つかった水車組帳箱

### 米搗き用に40数年前まで活躍

荒倉川に  
2基設置  
組合つくり管理されていた

昭和30年  
代半ばま

中には複数の石臼が置かれ、住民たちが持ち寄る玄米が白米に精米されていた。荒倉川沿いに設けられた「高津の水車」に加入する約20戸が利用。同組合の組合長を塩見さんの父、岩夫さん（故人）が務めていた。荒倉川沿いに設けられたこともあって、書類を入れた木箱が塩見さん宅に残されていたのだ。塩見さんも子どものころ、祖母と一緒に米を積んだりヤカーを引いて水車小屋に何度も通った。塩見さんの記憶によると、「水車

（63）は自宅の離れを整理している」と、1つの木箱を見つけた。木箱のかぶっていたほこりを雑巾でふき取ると、上ぶたの表面に墨で書かれた文字が浮き出てきた。「水車で、高津町には2基の水車が回っていた。水車は田んぼなどに水をくみ上げる水揚げ用ではなく、ともに米搗き用だった。組織して管理されていた。木製の方は「市場水車に併設された小屋のた。大正拾年拾月 材料並

車組合」に加入する約20諸品買入帳」「昭和八年九月 水車造用帳」といった文書のほか、昭和38年の組合解散時の貯金通帳や清算書も入っていた。塩見さんも子どものころ、祖母と一緒に米を積んだりヤカーを引いて水車小屋に何度も通った。塩見さんの記憶によると、「水車

が稼動していたのは、中上ぶたに「大正十年度水車組帳箱 市場水車 秋から翌年の5月ごろ」の組合」と記された木箱の「当時組合員の名前を記した木札があった。順番に水車を利用していた」。

「大正拾年拾月 材料並



塩見さん宅で見つかった木箱の中には、各種文書のほかに水車小屋で使用されたかきも納められていた（高津町で）

かつて水車は各地にあり、塩見さんが子どものころ、大島や上延、岡などの各町でも水車が回っていた。高津町の水車は他町に比べて長く現役で

働いていたため、小学生ら水車の姿がなくなっ

らが見学に訪れたこともあったそうだ。しかし、

同町に水車があった名

変化に伴い、昭和34年ごろ、かつて鉄製の水車

がなくなった。高津町の風景が

がなくなった。高津町の風景が

石臼が放置されている。また、鉄製水車の小屋は

付近の民家の敷地内に移

築され、農具小屋として

現在も活用されている。

「クリーンなエネルギー」として、また景観的にもおもしろい。塩見さんは長年、水車に関して興味を持ち続けてきた。そんな中、自宅から地元の水車にまつわる資料が詰まった木箱が現れた。塩見さんはこの木箱一式を、「昔の農村における歴史的、生活的記録資料として大事に保存していきたい」と話す。

また塩見さんは「将来的に高津の水車のことを

何らかの形にまとめた

い」そうで、当時の水車を撮影した写真など関連資料の提供を求めている。塩見さん宅は宮42・4337。

（細見）